

銀河連邦の輪

銀河連邦共和国とは昭和62年、全国の文部科学省宇宙科学研究施設がある5市町(当時の三陸町が加盟)がユーモアとパロディー精神を持って建国したもので、昨年の合併後も「サンリクオオフナト共和国(甘竹勝郎大統領)」として、銀河連邦を結ぶ各共和国と引き続きさまざまな交流を行っています。銀河連邦を構成しているのは、サガミハラ共和国(神奈川県相模原市)、ノシロ共和国(秋田県能代市)、ウスダ共和国(長野県白田町)、ウチノウラ共和国(鹿児島県内之浦町)そしてわたしたちのまちサンリクオオフナト共和国の3市2町です。今年で15周年を迎えた銀河連邦共和国は、毎年各国持ち回りで首脳サミット、フォーラム、子ども留学交流などを行っています。



今年は大船渡市市制施行50周年記念事業の一環として、サンリクオオフナト共和国を建国して初めて当市を舞台に「銀河連邦首脳サミット・フォーラム」「銀河連邦子ども留学交流」が開催されました。

銀河連邦子ども留学交流は7月29日～31日の2泊3日で行われ、各共和国の児童56人が参加し、体験交流などを通じて友情の輪を深め合いました。子どもたちは、三陸大気球観測所や市立博物館を見学し、大船渡の科学そして歴史を学びました。また、天候にも恵まれ日差しを浴びながら、子どもたちは吉浜海岸で海水浴を楽しみました。

8月6日、銀河連邦首脳サミットは各国の大統領など約30人が参加し、三陸保健福祉センターで行われました。「共和国同士の心のふれあいを基本とした産業・経済・観光分野での新たな交流を目指す」を共同声明として採択しました。その後、会場を三陸公民館に移し銀河連邦フォーラムとして基調講演、パネルディスカッションなどが行われ、今後の交流の広がり期待を寄せました。

異なった風土・文化を持つまち同士の結びつきから得るものは当市にとって大きいものがあります。子どもたちの交流事業などは軌道に乗り、次代を担う子どもたちの視野を広げる交流の場として定着してきています。まちとしては、さらにもう一歩前に進んだ交流として、幅広い層での交流、特に産業・経済・観光分野での交流を目指し、その結びつきから得たものをまちの活性化につなげていきたいと考えています。

8月28日、小石浜トンネルの早期実現を目指す大船渡市期成同盟会(会長・甘竹市長)の決起大会が市民約360人が参加し開催されました。主要地方道大船渡綾里三陸線(県道9号)の綾里～越喜来区間は、道幅が狭く急カーブや急勾配の連続であり、住民の皆さんの悲願である小石浜トンネルが実現すれば、快適な交通ルートになるとともに、新たなまちづくりが広がります。

大会では、岩手大学工学部の岩佐正章助教授による「最近の道路対策」と題した基調講演などが行われました。また、会長である甘竹市長は「皆さんの力を結集させ、1日も早く、日常・産業・観光の大切な道路として小石浜トンネルを実現させよう」と力強く述べ、会場に集まった市民の皆さんは、小石浜トンネル早期実現に向け、心を一つにしました。

小石浜トンネル
早期実現に向け

「綾里地区夏まつり」8月14日

綾里地区夏まつりは、午後7時から道中パレードがスタートし、浴衣姿の子どもたちから大人まであでやかな手踊りを披露しながら地区内の目抜き通りを練り歩きました。

また、綾里小学校校庭を会場に約500人が集まり、大盆踊り大会が行われ、綾里地区にとってこの夏一番のにぎやかなお盆の夜になりました。



綾里地区夏まつり



三陸港まつり

「三陸港まつり」8月16日

三陸港まつりは、越喜来漁港を会場に「海上ぶらさがり競争」や「船こぎ競争」などの催しが行われました。また、夜になると港内で灯籠流しが行われ、まつりに訪れた人たちは、その幻想的な世界に酔いしれました。

その後、まつりの目玉「花火大会」が行われ、行く夏を惜しましました。

祝 大船渡市成人式

20歳の皆さんおめでとう!



8月15日、合併後初となる大船渡市成人式がJ Aおおふなと会館大ホールで開催されました。

今年、成人を迎えるのは668人。会館のロビーは同級会ムード一色で、久しぶりの仲間との再会を喜んで、友達同士抱き合ったり、一緒に記念撮影したり、若さを素直に表して友情を確かめ合っていました。

式典終了後には、出身中学校ごとに記念撮影が行われ、成人式の喜びを写真に残しました。

